

『雄牛との対決』

～牛の意識と市場の買い含みに関する雑感～

私の中には人間でない何かがある：
大きな雄牛が私の深淵に住んでいる。

ゆっくりとその牛は、
私の意識の野原を行き交い、
尾は柔らかな刷毛のようにリズムカルに振れ、
鞋は意識の草に柔らかに沈んでいく。

牛の冷静さをもって、脳内の獣は
大きな緑の牧草地と、数多の仲間たちの夢を描く。

彼は論理の重荷を背負わず、
ハンバーガーの肉になることを恐れず—
ただゆったりとした餌を食べる知恵だけを持ってい

永遠の反芻物を嚙みながら、
子牛たちがクローバーの中で戯れている。
彼は静けさを体現していて、
それは私の人間の心がただ求めるものだ。

しかし、この理想的なイメージは脆い幻想に過ぎない
価格が適正であれば、
すべての家畜は知らず知らずのうちに屠殺され、
選別され、切り刻まれ、包装され、
そしてお粗末なショッピングカートに入れられる。

その時、同じ哺乳類である人間は、
悪意なく尋ねる、「夕食は何？」

ティン：（静かに、首を横に振りながら）私たちは動物に対してもっと思いやりを持つべきです。
私たちは彼らにより深い慈悲を捧げるべきです。私たちは彼らとはそれほど遠くないのです。

ミン： 確かに。人間は複雑な社会の網を織り成していますが、私たちの本質は単なる動物で
あることを忘れてはいけません。文明という皮膚の下で、私たちは依然として血、呼吸、
骨から出来た生き物です。

- T Newfields (和訳: 槌谷メリッサ、テレサ、katkay、みーね、とNekojara-City)

開始: 2004年 東京都 完成: 2026年 静岡市